

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)藤沢市本舘沼計画 新築工事	階数	地上7F
建設地	藤沢市本舘沼二丁目3710番1 他6筆	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居/第1種低層住居専用地域、準防火/防火指定なし	平均居住人員	160 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2021年6月1日
敷地面積	1,553 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 明建築設計事務所
建築面積	811 m <sup>2</sup>	確認日	2021年6月1日
延床面積	3,277 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 明建築設計事務所

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

### LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
生活利便施設、教育施設が整う成熟した街並みに有る計画地のため、周辺に多い邸宅を意識した道路沿いの塀、シックな外観を意識し、高度制限の無い用途地域ではあるが7階に押え周辺環境に溶け込めるデザインとした。沿道緑化や隣地境界沿いには生垣や中木を配置し、屋上緑化を含めて環境に配慮している。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
専有部分について、断熱性能等級4とし、高い昼光率を確保している。また、建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用するなど、室内環境の向上に努めている。	住宅性能評価における劣化対策等級3とし、階高にゆとりをもたせた設計としている。また、空調・給排水配管の更新対策にも配慮するなど、建物のサービス性能の向上に努めている。	0
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱性能等級4とし、建物全体のBEI=0.90としている。	躯体+軽鉄+仕上材のディテールを採用している。	LCCO2排出率80%とし、光害抑制に配慮を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される